

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600508		
法人名	有限会社 ハッピーファミリー		
事業所名	グループホーム 大社		
所在地	島根県出雲市大社町中荒木2617-85		
自己評価作成日	平成24年8月6日	評価結果市町村受理日	平成24年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成24年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ○編み物、絵画、将棋、野菜作り、金魚飼育、ニワトリ飼育、料理、ドライブ等各人の趣味活動 ○健康管理 ○日常生活におけるの身体機能維持 <p>上記事項を中心にし、介助支援を行っています。日々の生活観察、介護記録により、ちょっとした普段とは違う様子をつかみ、風邪、食欲不振、脱水症等の病気予防を図っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地から車で数分かかる、県道脇の三方を森に囲まれた便利で自然豊かなところにホームはある。本年4月から、所長、管理者とも交代した新体制において「生活の継続性、主体性を大切に、利用者が安心して暮らせる」という理念を実践するべく、新たな趣味活動やホーム外活動などを様々に取り組んでいる。飼われている鶏の卵の収穫や畑の水やりなどは利用者さんの仕事である。定期的に開催される運営推進会議から提案された意見や利用者家族など、あるいは職員からの意見などで、例えば避難マニュアル作成や、利用者一人一人の希望による外出支援など、ケアの向上のために取り入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は提供しているサービスが理念に沿ったサービスであるか定期的に確認し、サービスに生かしている。	生活の継続性と主体性を大切にし利用者が安心して暮らせるという理念は、管理者、職員がともに理解している。また、特別ではない、ごく普通の家庭生活と利用者が感じられるようなホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援により、地域社会での買いもの、食事、散策等を行い、地域とのつながりを感じながら生活ができるように支援している。	入居者は地元出身が多く、買い物やドライブなど、馴染みの地域に日常的に出かけている。また、親戚や知人など、顔見知りの方の面会もある。避難訓練の際には近隣住民の協力もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護学生の実習を受け入れたり、利用者家族、友人等に認知症の理解を得られるようにお話したり、相談にのったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度に現在の取組みや取り上げられた事項について話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では、一人一人の利用者それぞれの現状と問題点などにも話し合いがなされ、よりよいケアを利用者、家族だけではなく、行政や地域住民からも意見をいただきながら、ホーム全体で取り組んでいる。	運営推進会議で議題になった、津波などを想定した災害時の避難場所が決まっていないので、地域や行政と話し合っていくことである。そのようなプロセスを通して協力関係がさらに深まることも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換及び事業所の実情を市役所内にて担当者に伝え、協力を得ている。	本年4月から、所長や管理者などの交代があり、また介護保険制度の法改正の事もあったため、市の担当者とは毎週のように話し合っている。ケアの内容についても、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の禁止、高齢者虐待防止法等の理解を定期的に話しあい、拘束しないケアに取り組んでいる。	認知症の方に対して、動かれただけで、「どうされましたか」などと尋ねることなどをスピーチロックとしてとらえ、してはいけないことと職員には指導するなど、特別視しない、普通の対応や人間関係が築かれるよう配慮する中で、身体拘束への警鐘を意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の選択、自由を制限するような行為が無いように、スピーチロック等にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もあり、必要に応じて自立支援事業、後見制度を利用している。各制度について職員も理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時において、契約書、重要事項説明書、事業運営規定等の説明により、家族の疑問点、不安感を解消している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時、介護支援計画説明時、家族訪問時にご意見や要望を伺い、運営に反映させている。	利用者には、常々希望や思いを尋ね、それを実行しケアに活かしている。家族とも報告や話し合いを多くし、信頼関係を築いている。例えば、他県に住む家族から家族の近くの施設に入居させたいがいかがかという相談が合ったときにも、親身に相談に乗り、利用者にとってよりよいケアはどのようなものかという話し合いも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議で職員の意見や提案を聞き、よりよい事業運営ができるように協力を得ている。	職員は、管理者等に対しても意見が言いやすい雰囲気であり、理念の実行に関して、オープンに話し合っよりよいケアに取り組んでいる。植物をホームの外に多く取り入れることや、鶏や金魚など生き物の世話をしていくことなども新たに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議に参加し、職員の意見を聞いたり、職員の資格取得、労働環境の改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会の確保、資格取得の支援、介護技術の伝達等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流や見学等により、自社の事業所のサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前の自宅訪問、家族からの聞き取り、介護サービス事業者との情報交換により、本人が安心して生活が出来る環境、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス契約時に家族の困っていること、不安なことを伺い、安心してサービス利用ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のお話を伺い、介護課題、支援方法等の検討を本人、家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者であるという一方的な立場ではなく、共に生活している者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得て、できるだけ本人らしく、今までの生活の継続が行われるように、家族と連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の慣れ親しんだ場所を散策したり、地域の人との交流が図られるように外出支援等を積極的に行っている。	もともと地元出身の利用者が多いため、地域との関係性はとぎれないが、遠方の利用者についても、ドライブで家に帰ったり、お墓参りなどを希望により支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤独感が無く、支え、支えられる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても、生活の継続性が保たれるように、情報の提供、家族との話し合いを行い、安心してサービスが利用できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重し、思いが実現できるように環境整備を行っている。	認知症の方は、思いを率直に表せないことも多いため、職員が様々な情報や関係者から、その方に関する話を聴いて判断することもある。その際にも表情や、笑顔などで、本人の希望に添っているかを常に確認しながらケアを行うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの継続のため、家族からの情報、本人とお話、他事業所からの情報を得て、馴染みの暮らし方ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、出来る事、本人の思い等を理解し楽しい生活ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の思いを理解し、より良く暮らすための課題とケアのあり方を担当者を交え話し合う機会を設けている。また、モニタリングから、よりよい介護計画ができるように努めている。	担当者を中心に職員全員で作成した介護計画は、利用者の固有のニーズを反映しており、状況に合わせて変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録により日々のケアの実践、気づきを職員間で共有し、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個性を重視し、個人がその人らしく生活出来るように、サービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の資源を把握し、豊かな暮らしができるように社会資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が安心して適切な医療サービスが受けられるように通院介助、複数の医療機関と関係を密にしている。	本人家族の希望にあわせたかかりつけ医受診への援助が行われている。家族が遠方に居る場合などには、受診に付き添い、病状なども聞き取って家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調確認、表情の変化により、普段と異なる健康状態があれば、看護師に伝え、適切な処置、受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院した場合は病院に対し、介護情報の提供、定期的な面会により病院との情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し十分なサービスの提供が出来なくなってきた時は家族と話し合い、終末期のあり方について話あい、今後の介護サービス利用について共有の認識を持ち支援に取り組んでいる。	重度化は避けて通れないもの。健康を維持向上するためのケアに努めるが、その時を予想した話し合いは、折に触れて行うようにしている。看護師や職員数などまた、施設環境を考慮しつつ、ターミナル対応については、慎重にと考えている。	重度化したときの対応については、介護体制だけでは不十分であり、医療、看護、設備など様々な条件を満たさなければならない。ホームが良さを発揮できるケアのあり方はどこにあるのかを再認識しているので、独自の方針を利用者と共有できるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態の急変時、事故発生時において、救急車が到着するまでの応急処置や準備することについてミーティング時に話あっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。その時に消火器の使い方、避難経路の確認を行っている。	利用者を交えた避難訓練のほかに、業者による防災設備の点検を年に数回行い、緊急時に備えている。近隣住民の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねるスピーチロック等の言葉に気をつけサービスを提供している。	話好きな利用者には、十分に会話の相手をし安心してもらう。また、排泄の誘導にも、周りにそれとさどられないよう配慮して促すなど、年長者としての配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせ、質問の仕方や、働きかけを変えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の思いに沿った支援を実施している。日常生活のリズムも本人のリズムで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけ、自分が思うようにできないかたは少し、手伝いをしている。巡回の理容・美容車を利用し、頭髪カット、髪染め等本人の希望に沿うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の好きな方の協力を得て、一緒に準備や片付けをしている。一人ひとりの嗜好も取り入れ、楽しい食事ができるようにしている。	普段から、食事の献立や準備方付けなどを利用者を交えて行っている。誕生日には、好きなものをメインに献立し、例えばちらし寿司やお好み焼きなどでお祝いする。食事は、職員もともに皆でゆったりと穏やかに行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、食べる量、栄養バランスを確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きをして頂き、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人介護記録により、排泄パターンの確認、排泄の声かけにより、オムツの使用を減らしている。	排泄の失敗はさりげないケアで援助し、恥ずかしい思いに傷つかないように気をつけている。下着にパット程度ですませたりし、なるべくおむつの使用は最小限にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、水分摂取の実施、ヨーグルト、バナナの摂取をし、下剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に希望がある方は希望に応じて入浴をしていただいている。	認知症の方には、入浴への理解が難しい場合が少なくない。多様なコミュニケーションにより、それぞれではない、本人の意欲を引き出しながら浴室にお誘いし、楽しく気持ちの良い入浴を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、睡眠時間、休息は個人のペースで行っていただいている。昼夜逆転しないようにサービス提供を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理を実施し、処方と効果の確認を行っている。状態の変化があった場合は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が単調な日々にならないように、外出支援、好きなことをできる環境作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外泊したり、住み慣れた地域を散歩したり、ドーナツを食べに行ったりと希望に応じた外出支援を行っている。	日常的に、利用者一人一人の希望に応じた外出をしており、ホーム内にとどまらないケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布にお金がないと心配である利用者には、本人の希望通り持っていていただいている。また、買物時は職員が見守り、金銭の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近くにいない子供や兄弟、親戚に自分で電話できない人は職員が代わりに電話し、話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に出来るだけ緑の観葉植物を置いたり、テーブルにお花を飾ったりし、気持ちよく過ごせるようにしている。	ホールは、光が十分に取り入れられて明るい。利用者が思い思いにくつろいだりレクレーションなどを楽しめる設えや広さがある。玄関やホールには季節の花や、観葉植物がおいてある。手作りの作品や、水槽の魚などものれん越しの手料理の匂いとともに日常の家庭的な温かさを醸している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で、仲良く長いすに座り、おしゃべりをしている。共用空間も広く十分な居場所が確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みのものを近くに置いて、居心地良く生活ができるように配慮している。	利用者が個室においても生活を楽しめるよう、個性的な設えになっている。自分の部屋を案内してくれた利用者さんは、自信たっぷりにホームでの暮らしぶりを話してくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は高齢者も移動しやすいように表示文字も大きく、わかりやすく理解できるように表示され、転倒等事故など起こらないように職員が環境整備に努めている。		